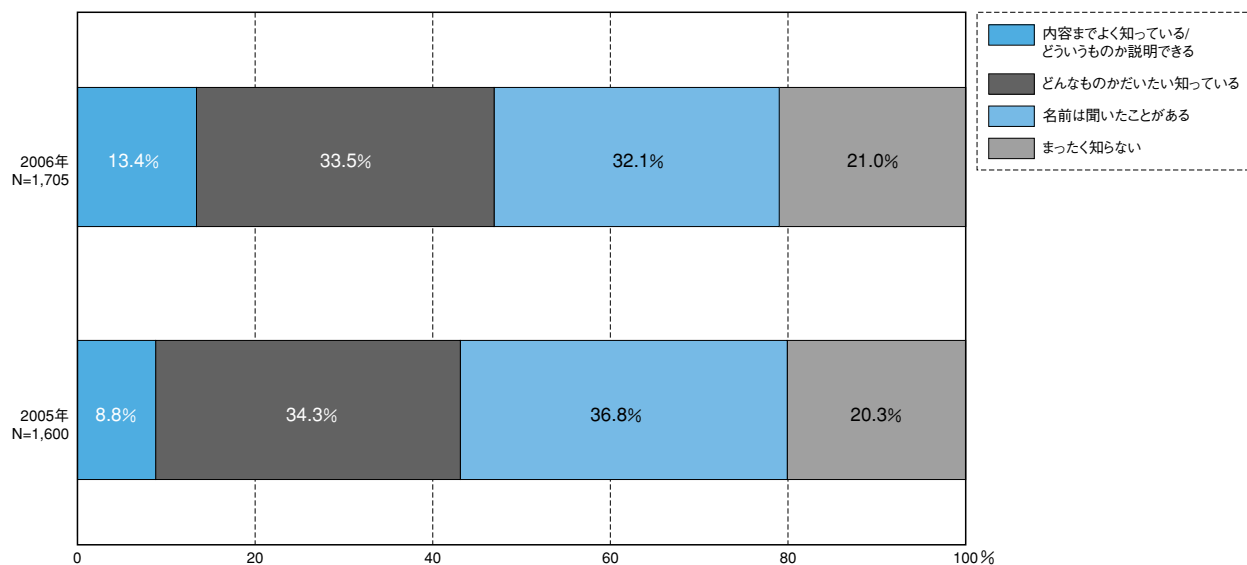


映像配信

IPTVまたはVODサービスの認知率は8割

資料2-7-15 IPTVまたはVODサービスの認知度 [2005年ー2006年]

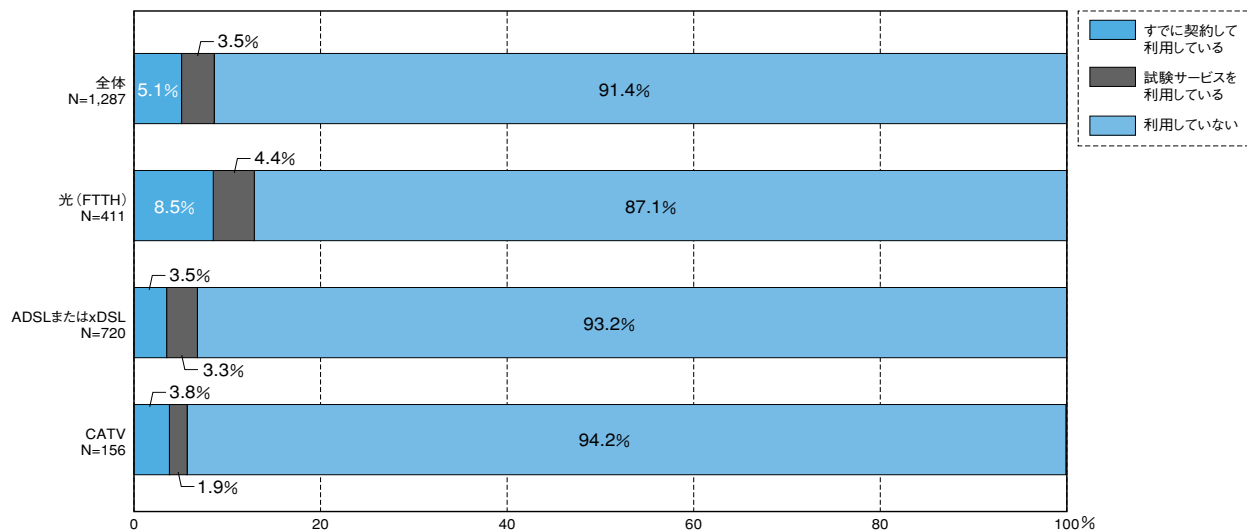


©Access Media/impress R&D,2006

ブロードバンド回線を介したIPTVまたはVODサービスの認知についてインターネット利用者全員に聞いたところ、認知率は昨年同様約8割と高い。ただし、昨年と比較するとその内容の理解度が深まり、「内容までよく知っている/どういうものか説明できる」が13.4%と昨年の8.8%を上回る。

IPTVまたはVODサービス利用者（試験サービス含む）は1割弱

資料2-7-16 IPTVまたはVODサービスの契約状況 [全体と接続回線別]



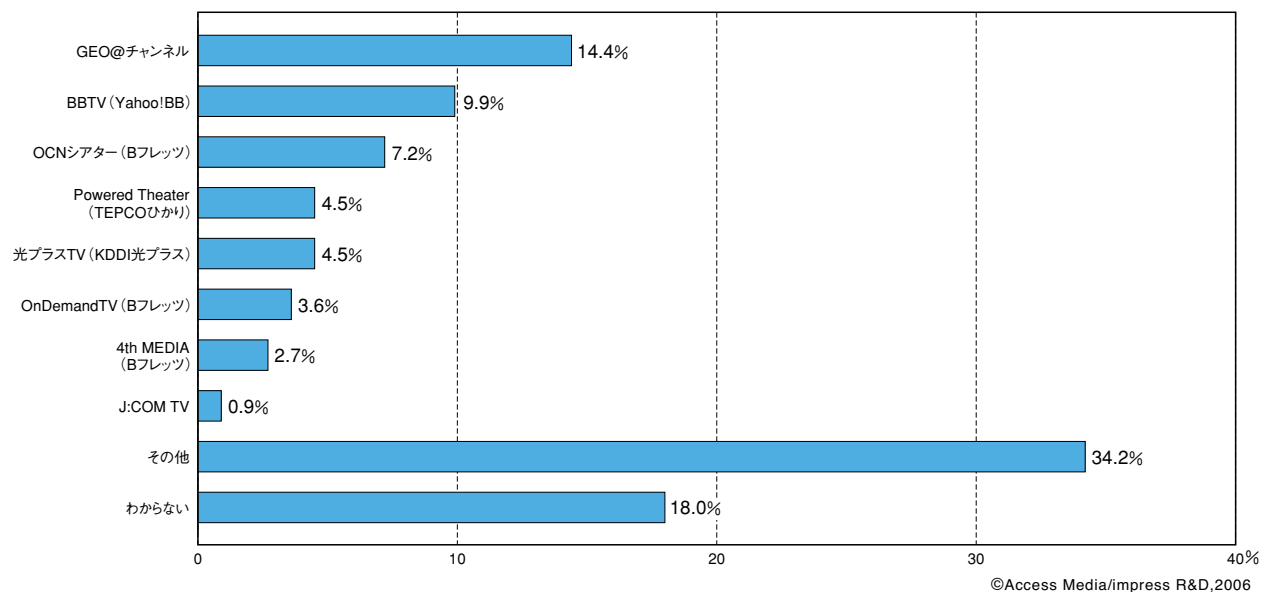
©Access Media/impress R&D,2006

IPTVまたはVODサービスの認知者の中から、ブロードバンド利用者1,287サンプルに実際のサービス利用状況について聞いた。実際の利用者は8.6%とまだ少ない（資料2-7-1～4とは母数が異なる）。実際に提供しているサービス業者も少なく、地上波テレビやケーブルとの差別化が不明瞭であることや、ビジネスモデルがまだ発展途上であることが利用されていない原因だと思われる。接続回線別では、光（FTTH）で利用率が高い。

映像配信

「その他」が34.2%で種類は不特定多数

資料2-7-17 利用しているIPTVまたはVODサービスの種類（単一回答）N=111

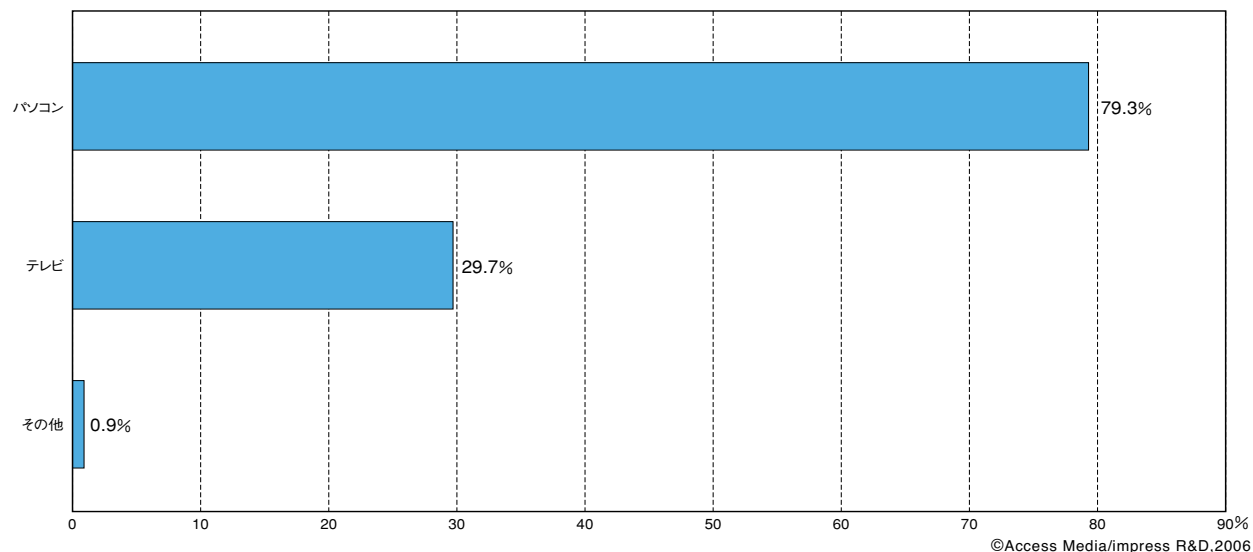


利用しているIPTVまたはVODサービスの種類は、「GEO@チャンネル」が14.4%で首位、次いで「BBTV (Yahoo!BB)」、「OCNシアター (Bフレッツ)」と続く。「その他」が34.2%で最も高く、決まった大手サービスはない。今年大きな伸びをみせたBフレッツ事業者が提供するサービスの利用率はまだ高くはない。

※J:COM TVは厳密にはIP技術ではない。

約8割の利用者がパソコンで映像を視聴

資料2-7-18 利用しているIPTVまたはVODサービスを視聴する機器（複数回答） N=111

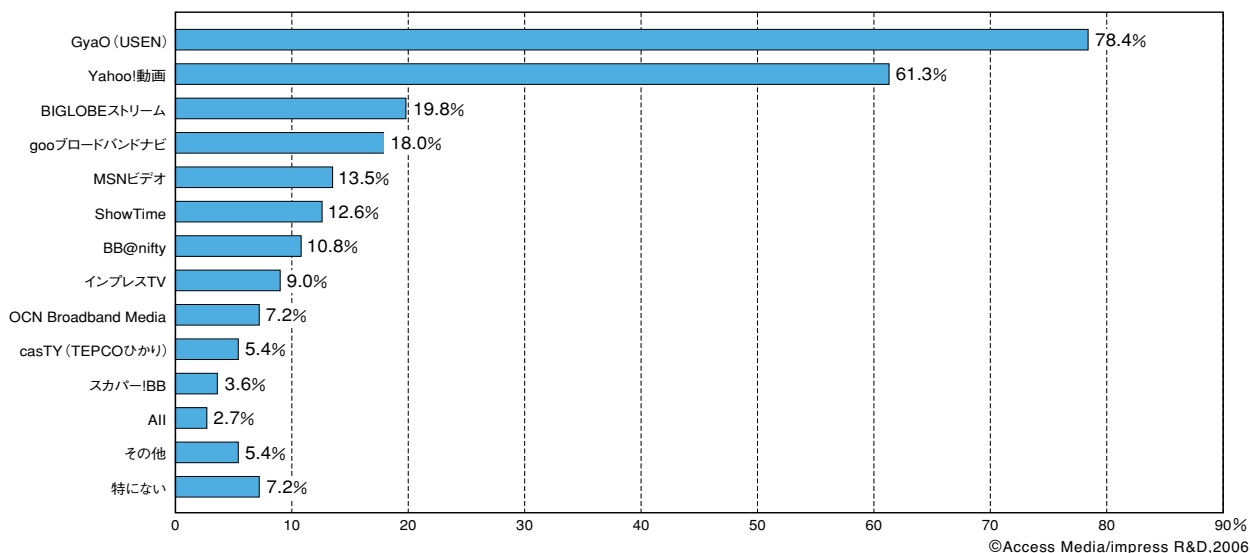


IPTVまたはVODサービス利用者111サンプルの視聴機器は、「パソコン」が79.3%で主流の機器である。インターネット接続回線を利用している動画視聴となるため、ルーターなどを改めて設定する必要があるテレビよりは、すでにインターネット接続環境の整っているパソコンでの利用率が高いことが考えられる。接続回線別では、光 (FTTH) 利用者の「テレビ」視聴が高い。

映像配信

視聴経験率が高いのは、無料の「GyaO」、「Yahoo! 動画」

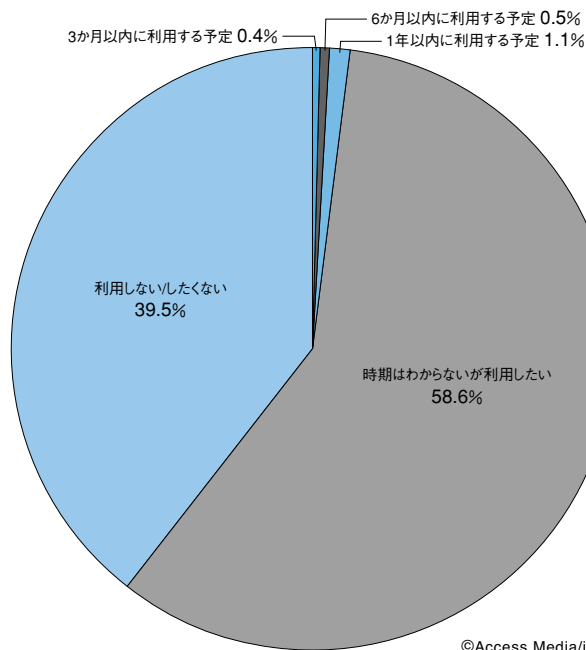
資料2-7-19 その他のインターネット映像動画の視聴（複数回答） N=111



IPTVまたはVODサービス利用者に、有料無料にかかわらず映像動画の視聴状況について聞いてみた。視聴経験のあるものは、「GyaO (Usen)」が78.4%で最も高く、次いで「Yahoo! 動画」の61.3%が上位を占める。上位2位は、無料でかつ動画コンテンツ数が充実しているサービスだけに、視聴経験が高い。なお、「GyaO」、「Yahoo!動画」の視聴経験を性別年代別でみると、男性30代、40代が圧倒的に高い。

6割がIPTVまたはVODサービスの利用意向を表明

資料2-7-20 IPTVまたはVODサービスの利用意向 N=1,236

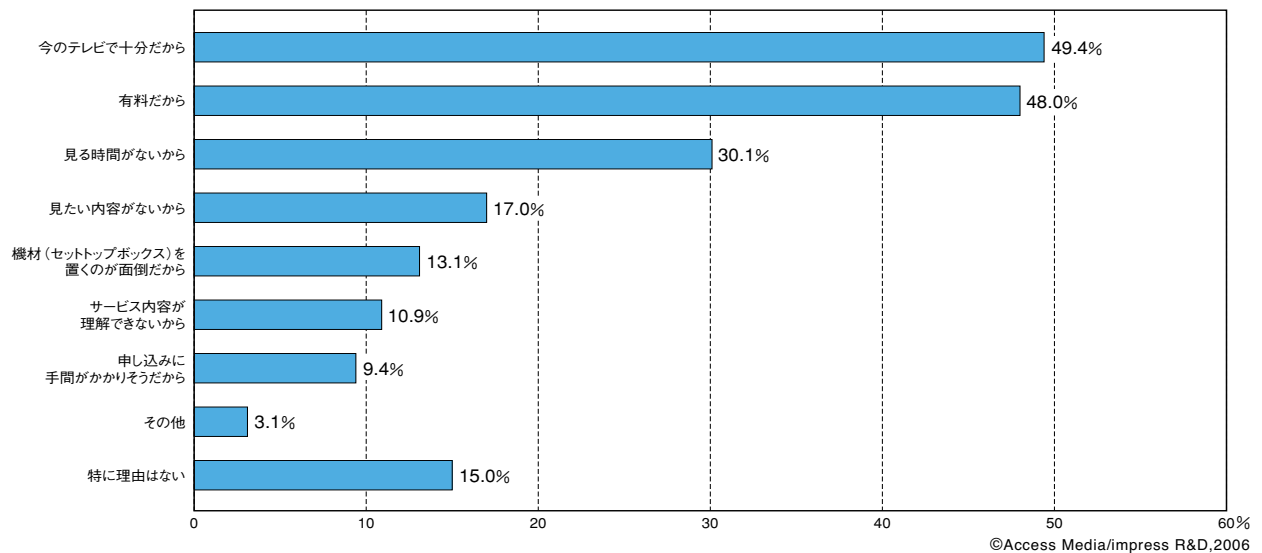


IPTVまたはVODサービス非利用者1,236サンプルの利用予定を聞いたところ、「時期はわからないが利用したい」と約6割が利用意向を示している。大容量、高速のブロードバンド接続環境ならではの利点を活かすためには動画視聴が最も適していると思われるが、視聴する機器によっては利用意向は変わることもある。

映像配信

主な非利用理由は、「テレビで十分」「有料だから」

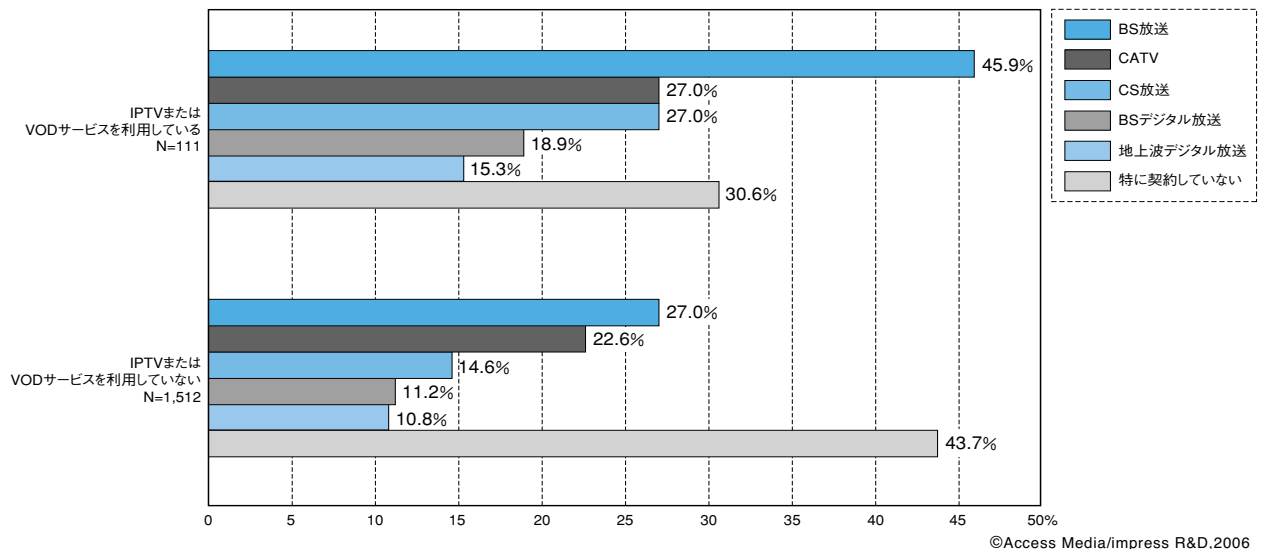
資料2-7-21 IPTVまたはVODサービスの非利用理由（複数回答）N=488



IPTVまたはVODサービスを「利用しない/したくない」と回答した488サンプルの非利用理由は、「今のテレビで十分だから」（49.4%）、「有料だから」（48.0%）が主な理由として挙げられている。テレビ視聴時間も減っている状況のなか、テレビと同じ位置付けでIPTVをとらえているということや、ただ単に非利用者は動画視聴については関心が薄いことなどが非利用理由として考えられる。

契約率が高いのはBS放送とCATV

資料2-7-22 IPTVまたはVODサービスの利用状況別にみる契約しているTV放送（複数回答）



IPTVまたはVODサービスの利用状況別に、契約しているTV放送の契約状況をみたものである。全体的にTV放送契約率は、IPTVまたはVODサービス利用者のほうが非利用者よりも高い傾向がみられる。今後主流になるであろうデジタル放送（「地上波デジタル放送」、「BSデジタル放送」）についても、すでに利用している比率が高い。IPTVまたはVODサービス利用者は、映像視聴に対して積極的である。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp